

教科	前年度正答率(%) 【全国比(P)】		課題となる 観点	問題番号・出題のねらい <学習指導要領>	前年度自校正答率 【全国比】	児童生徒の誤答の傾向と分析(○)、教育指導上の要因分析(●)	課題改善のための<指導場面(指導時期)>と具体的な取組	目標値	検証値
国語	教科全体	80.0【+10.1】	知識・技能	情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。<小学校5・6年知技(2)ア、小学校5・6年思判表C(1)ウ>	30.0% 【-0.4】	○文章の中から2つの言葉を抜き出す問題であった。キーワードが問われている文の近くにある問いについては90%の児童が正答していた。一方で、離れたところにキーワードがある際には、適切なキーワードを抜き出せず、文字数だけでキーワードを見つけている傾向にある。 ●文章の中でキーワードに着目させながら考える指導が不十分であった。また、筆者の考えの根拠となる言葉を見つけさせ、教科書の言葉をもとに、自分の言葉でまとめる学習への指導が不十分であった。	<考えの読み取り(通年)> 何について問われているのかを理解し、文章に書いてあることを正確に読み取ることができるように指導していく。その際、キーワードとなる言葉、繰り返し使われている言葉等に着目させながら読むように声掛けを行っていく。	正答率 40.0%	% 【P】
	知識・技能	74.3【+6.4】							
	思考・判断・表現	79.3【+12.7】							
	主体的に学習に取り組む態度	82.0【+22.4】							
社会	教科全体						<(月)>	正答率 %	% 【P】
	知識・技能								
	思考・判断・表現								
	主体的に学習に取り組む態度								
算数 / 数学	教科全体	77.4【+19.1】	思考・判断・表現	1人あたりのたたみの数やたたみ1枚あたりの人数を求めて、どちらの部屋がこんでいるのかを説明している。<5年C(2)イ(ア)>	40.0% 【+24.7】	○正答率は40.0%であり、全国正答率を上回る結果であった。しかし40%と正答率が低かった。誤答として最も多かったのは、考え方と式が一致していないもので、20.0%であった。また、問題にあった解答ができていない児童が40%であった。 ●問われている数量で何を求めているのか、求めた数量をもとに何と比べるのかの理解が不十分であった。何を求めるべきか明確にし、計算させることの指導が不十分であった。	<量に関する学習(6月)> 単位量あたりの大きさを指導していく際には、求めている数量は何かを明確にし、ただ計算するのではなく、根拠を示しながら説明させていくようにする。 <基礎計算(通年)> 計算間違いがないように反復学習を行い、確実な計算力を身に付けさせる。	正答率 50%	% 【P】
	知識・技能	86.0【+19.7】							
	思考・判断・表現	61.8【+18.2】							
	主体的に学習に取り組む態度	60.0【+22.7】							
理科	教科全体	79.7【+13.4】	知識・技能	顕微鏡のピントを調節する方法を身に付けている。<5年B(1)ア(エ)>	30.0% 【-15.8】	○顕微鏡のピントの合わせ方を十分に理解できていない。 ●顕微鏡を扱う際の説明が不十分であった。また、ピントを合わせることを反復させ、定着させることが不十分であった。	<顕微鏡を扱う際> 全員が何度もピントを調節できるように課題を与え、確実に理解できるように指導していく。 <実験用具の使い方(通年)> 実験用具の適切な使用方法を確実に定着させるために、反復して操作させる。	正答率 45.0%	% 【P】
	知識・技能	78.1【+10.8】							
	思考・判断・表現	81.4【+16.3】							
	主体的に学習に取り組む態度	66.7【+9.8】							
英語	教科全体		知識・技能				<(月)>	正答率 %	% 【P】
	知識・技能								
	思考・判断・表現								
	主体的に学習に取り組む態度								